

小児科だより vol.27

発達障がい パート 1

2018.11.1 発行

こんにちは。だんだんと冬の気配を感じるようになってまいりました。毎年冬季に流行するインフルエンザですが、当科では今年も10月中旬より予防接種を開始しておりますので、お気軽にご相談下さい。

また、一昨年の11月号（小児科だより vol.3）に、『うちの子はインフルエンザのワクチンうったほうが良いですか？』というテーマで書いておりますので、乳幼児に接種する際の参考にしていただけますと幸いです。

さて、今月のテーマは『発達障がい』についてです。最近よく聞くこの言葉、インターネットなどで様々な情報を簡単に入手できることもあって、混乱や誤解も起きやすくなっています。実際に発達障がいと診断されたご家族へのアンケート調査では、発達障がいに対する世間のイメージと実態にギャップを感じる方が8割を超える結果となっています。ここでは、出来るだけわかりやすく、少しずつ説明したいと思います。

まず、『発達』についてです。発達には、首が座る、お座りする、つかまり立つなどの運動の発達のほかに、社会性やコミュニケーションの発達があります。具体的には、抱っこで泣き止む、あやすと笑う、鏡に映った自分に反応する、ママやパパを認識して笑う、人見知りをするなどの変化です。人と関わることで、社会性もどんどん成長していきます。

発達障がいは、社会性の発達が様々な原因により遅れることで起こってくる困難であり、他人と視線を合わせないなどの対人関係の問題、言葉がうまく出ないなどのコミュニケーションの問題、慣れない環境で大きな声を突然出すなどの想像力の問題などがあります。

ここで重要なことは、子どもたちは成長の過程で必ずこのような問題を起こすということです。対人関係、コミュニケーション、想像力などは、すべて発達途上であり、ある程度の問題を克服しながら成長していくものです。しかし中には、その問題があまりに強く、ママやパパがとっても困ってしまったり、集団保育などで同年代の子どもと全く遊べなかったり、言葉がいつまでたっても出ないお子さんもいます。

最近、市の発達支援などの相談を経由して、このようなお子さんやご両親が小児科外来にいらっしゃることは日常的です。発達障がいで相談するポイントは、ご両親がどのくらい困っているか、さらに大切なことは、子どもがどのくらい困っているかです。発達障がいのある子は、なんで怒られているか理解できていないため、同じいたずらを繰り返してしまうことがあります。そうするとご両親は困ってまた怒ってしまいがちですが、本人はなぜ怒られているか理解できていないため、さらに困ってしまうのです。まずはその特性を理解し、お子さんが困らずに成長できるように手助けをしてあげることが大切なのです。

